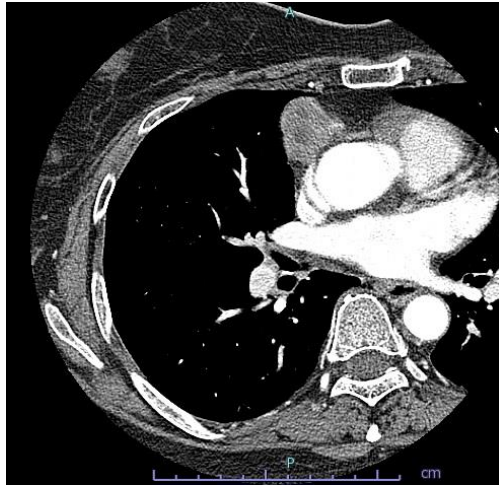
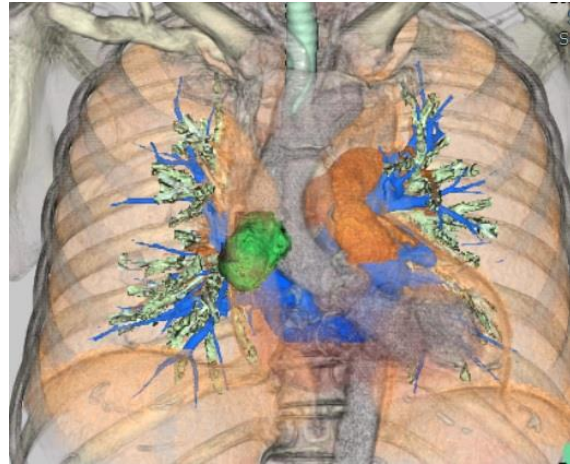


【胸腺腫】

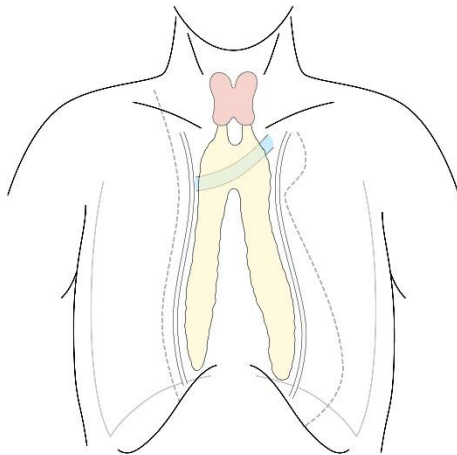


胸腺腫 CT



胸腺腫 3D

胸腺とは図のごとく胸骨裏面の前縦隔に位置し、骨髄で作られた未熟なリンパ球（白血球の一部）を成熟させる役割を担っています。小児期には活発に機能しますが、思春期以降には退縮して周囲の脂肪と区別がつかなくなります。



胸腺のシェーマ

胸腺腫は胸腺上皮から発生し、リンパ球が様々な割合で混入するのが特徴です。胸腺癌などに比べると非常にゆっくり発育し、リンパ節転移や全身転移を来すことは稀な悪性腫瘍です。

胸腺腫には、リンパ球の成熟に関わる機能的な腫瘍としての側面があります。難病である重症筋無力症を2割程度の割合で合併します。CTで上胸腺腫を疑う腫瘍であれば重症筋無力症の指標である抗アセチルコリン受容体抗体の測定が必要です。この抗体価が高い患者さんには、症状がなくても術前筋電図などを行い、重症筋無力症が発病しているか、または潜

在しているかを確認します。

胸腺腫は赤芽球癆や低ガンマグロブリン血症（Good 症候群）、他シェーグレン症候群などの膠原病といった自己免疫疾患が併存することがあります。胸腺腫の特徴として腫瘍内のT細胞リンパ球が自己抗原に対する自己寛容が不完全なこと、すなわち自己を攻撃する抗体を生成することによります。このように胸腺腫は腫瘍が増大し進行する腫瘍的な因子と、時間の経過で何らかの自己免疫疾患を発症するリスクがあるため、早めに摘出することが望ましいと考えられます。

治療は外科的切除が第一です。①腫瘍を完全切除する胸腺部分切除を行う場合②抗アセチルコリン受容体抗体が陽性ないし重症筋無力症を合併する胸腺腫には拡大胸腺全摘術を行う場合があります。外科的完全切除ができない場合は、放射線治療を行う場合があります。